



CONTENTS

故桐山修八先生を偲ぶ..... 1-2  
 日本食物繊維学会第16回学術集会プログラム..... 3-4  
 編集委員会より..... 8



故桐山修八先生を偲ぶ



本学会名誉会員 印南 敏

本学会名誉会員桐山修八先生が平成23年10月8日にお亡くなりになりました。享年81歳でした。衷心より哀悼の意を捧げます。先生の思いがけないご逝去は本学会にとって大きな損失であり、残念の極みこの上もありません。振り返りますと先生との交流は50年余に及び思い出は多く尽きませんが、その中で先生と私が関与した印象に残る主な事柄について述べ先生を偲ぶよすがとしたい。

先生は名古屋大学大学院博士課程終了後の1960年6月に最初の赴任先として私の勤めていた国立栄養研究所応用食品部に着任されました。先生との同室は一年程でしたが、先生在職中の思い出として特に印象深い出来事は”栄養学若手研究者の会”の設立です。1966年春第1回総会が開催されて以来40年余にわたり若手研究者の会が今日も尚続いています。先生の発案と熱意によるところが大きいと考えています。これを契機として先生の徳島への転任以後も有形無形に交流・交友が深まりました。

1972年 Dietary fiber という概念の登場により、それ以前にわが国で主として研究されていた非栄養成分という名称の位置づけが容易になった反面、その日本語訳は研究者個々により異なって混乱を招いたため用語の統一の必要がありました。そこで、私は1980年日本農芸化学会の藪田基金の援助を得て“Dietary fiber

の定義、用語、定量法に関する研究小集会”を Dietary fiber 関連物質の研究に携わる第一線の研究者を招集し国立栄研で開催しました。席上それまで各個に発表されていた日本語訳を整理して示し討議の結果、桐山先生提案の“食物繊維”が語呂も良く受け入れ易いとする意見が大勢を占めました。以後この用語が学術分野ばかりでなく、一般にも受け入れられるようになりました。桐山先生は食物繊維の生みの親と言えましょう。先生は食物繊維の外に外国にも通じる用語として“Luminacoids”も提案しましたが、世界的には Dietary fiber が通用されており当時は支持を得られませんでした。しかし、この用語は fiber の概念に相応しくない物質への対応もあり他の多くの訳語と同列に記載しました。用語の統一後間もなく先生は「食物繊維の栄養学的研究」のタイトルで日本栄養食糧学会賞を受賞されました。斯学の発展と啓蒙を図る意味で先生との共編によりわが国で初の「食物繊維」の専門書を出版し(1982年)、さらに、先生と相談の上わが国初の食物繊維を主テーマにしたシンポジウム「食物繊維の食品学的及び栄養学上の諸問題」を1981年11月に2日間にわたり東京で開催しました。発表論文は桐山先生の計らいで Nutrition Report International の増刊号に掲載され、また同タイトルの単行本(6人共編)が篠原出版から発行されました(1983年)。

1989年から1995年まで大塚製薬株式会社の後援により桐山先生を会長とする食物繊維研究会が非公開の形で会員の交流、研鑽、親睦の場として年1回総会が開催されましたが、その後企業後援の打ち切りにより1996年からはより開かれた組織として「日本食物繊維研究会」（会長：印南敏）が設立されました。ワーキンググループ「定義・用語・分類に関する検討部会」を立ち上げ、桐山先生を座長として食物繊維関連物質などの見直しを含め数年をかけてまとめた最終案が総会（2000）で承認されました。これにより学会はルミナコイドを食物繊維を含むあらゆる難消化性物質の包括的学術用語として採用することを正式に認めたこととなります。20年を経て漸く

陽の目を見たとき先生はさぞ感慨一入だったことでしょう。また、今年から学会誌は「ルミナコイド研究」と改称されました。病床でこのことを話しますと控えめながら満足そうに喜んでおられました。

先生はユニークな発想の持ち主で、その先見性と創発力は感嘆するばかりです。一つの目標に向かってこれでもかと追求の手を休めない学問に対する真摯な態度は後進への大きな刺激となるでしょう。ルミナコイド研究が本格的にスタートを切ったこの時期に先生を喪うことは学会として痛恨の極みですが、どうぞ後進の今後の活躍と学会の発展を見守って下さるようお願いいたします。どうぞ安らかにお休み下さい。

桐山先生が去る10月8日ご逝去されました。享年81歳でした。先生のこれまでの業績、とりわけ日本食物繊維学会における業績は大きなものがあります。謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、これまでの足跡を辿り、先生をお偲びしたいと存じます。

#### ❖ 桐山先生のご略歴 ❖

1930年 5月17日にご生誕されました

1960年 3月 名古屋大学大学院農学研究科博士課程農芸化学専攻満期退学

1960年 6月 厚生省国立栄養研究所入所

1966年 3月 同上退職

1966年 4月 徳島大学医学部助教授

1973年 12月 愛媛大学農学部教授

1982年 4月 北海道大学農学部教授

1993年 4月 大妻女子大学家政学部教授

2002年 3月 同上退職

1961年 3月 農学博士（名古屋大学）

1981年 5月 日本栄養・食糧学会 学会賞 「食物繊維の栄養学的研究」

1998年 5月 日本栄養・食糧学会 功労賞 「食物繊維を中心とする栄養学研究と教育に対する貢献」

1994年 4月 北海道大学名誉教授

#### ❖ 日本食物繊維学会との関わり ❖

1989年にclosedな食物繊維研究会が桐山先生を会長として設立され、年1回の研究発表会が開催されていきました。1996年からは、より開かれた日本食物繊維研究会（現 日本食物繊維学会）へと発展しました。

1980年に開催されたわが国で初めての食物繊維に関する集会「Dietary Fiberの定義、用語、定量法に関する研究小集会」で桐山先生がLuminacoidsを提唱されました。この用語は2000年、日本食物繊維学会において、食物繊維を含むあらゆる難消化性物質の包括的学術用語として正式に採用されました。

# 第16回学術集会プログラム

日 時 平成23年11月26日(土), 27日(日)  
会 場 独立行政法人国立健康・栄養研究所 講堂  
戸山サンライズ レストラン(懇親会)

第16回学術集会を以下の要領で開催いたします。今回の学術集会では、特別講演、シンポジウム及び公開講演会を開催いたします。特別講演では、ベルギーのルーベン大学 Cani 教授を招き、腸内細菌叢と肥満及び2型糖尿病との関連について最新の研究を発表していただきます。シンポジウムは、「消化管機能とルミナコイド：代謝疾患との連関」と題しまして、国内の最新のご研究を発表していただきます。最後に公開講演会ですが、「日本人の食物繊維の摂取の現状と将来」という内容で、食物繊維の重要性をご講演いただく予定です。

## 1. 行事日程

### 第1日 11月26日(土)

9:00 ~ : 一般演題発表  
13:00 ~ : 評議員会, 総会  
14:10 ~ : 特別講演  
15:30 ~ : シンポジウム  
17:45 ~ : 懇親会

### 第2日 11月27日(日)

9:00 ~ : 一般演題発表  
13:00 ~ : 授賞式  
14:20 ~ : 公開講演会

## 2. 参加者へのご案内

### 1) 学術集会受付

受付は開始30分前より、国立健康・栄養研究所1階にて行います。当日参加の方は、参加費(講演要旨集込)・懇親会費をお支払いください。

#### 【参加費】

- ①オンライン事前登録(銀行振込) <http://jdf.umin.ne.jp> (平成23年11月11日まで)  
正会員3,000円, 学生会員1,500円, 非会員4,000円, 懇親会費4,000円(学生2,000円)
- ②当日受付  
正会員4,000円, 学生会員2,000円, 非会員5,000円, 懇親会費5,000円(学生2,000円)

### 2) 呼び出し, クローク, 昼食, 駐車場, 宿泊等の手配など

- ①クロークの準備が出来ませんので、予めご了承ください。
- ②昼食は、各自ご用意ください。国立健康・栄養研究所内に飲食店はございませんが、周辺は学生街ということもあり、多くの飲食店、コンビニ等があります。
- ③事務局では宿泊等の斡旋は行いませんのでご了承ください。  
また、交通機関・宿泊の予約はお早めにお願います。

### 3) 会場, 運営等に関するお問い合わせ先

#### 【第16回学術集会実行委員会】

〒100-0013 東京都千代田区霞が関三丁目8番1号 虎の門三井ビルディング8F  
ダニスコジャパン株式会社 日本食物繊維学会第16回学術集会事務局 海老原 聡  
TEL: 03-6858-5080 FAX: 03-6858-5075  
E-mail: tadashi.ebihara@danisco.com

### 4) 学術集会会場及び懇親会会場への交通案内

国立健康・栄養研究所ホームページ <http://www.nih.go.jp/eiken> を参照

- 地下鉄大江戸線 若松河田駅から(徒歩10分)
- 地下鉄東西線 早稲田駅から(徒歩10分)
- 地下鉄副都心線 西早稲田駅から(徒歩14分)
- 懇親会会場

戸山サンライズ 国立健康栄養研究所から徒歩3分, 国立健康栄養研究所に隣接する区立障害者福祉施設隣り。

# 一般講演プログラム

1日目 11月26日(土) 9:00 ~ 12:28

座長：原 博 (北海道大・院農・応生科)

演題番号	時刻	演題および演者
1-1	9:00	重合度の異なるチコリイヌリンの <i>in vitro</i> での腸内細菌叢に及ぼす影響 ○小林由佳 <sup>1</sup> , 中村有美 <sup>1</sup> , 韓 圭鎬 <sup>1</sup> , 島田謙一郎 <sup>1</sup> , 大庭 潔 <sup>2</sup> , 菊地裕人 <sup>3</sup> , 有塚 勉 <sup>3</sup> , 川上秋桜 <sup>1</sup> , 福島道広 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 帯畜大・食品科学, <sup>2</sup> 十勝圏食加技セ, <sup>3</sup> 日本甜菜製糖(株))
1-2	9:13	ハイアミローススターチの大腸内環境改善効果とそのメカニズムの探索 ○川合美有紀 <sup>1</sup> , 上村佳嗣 <sup>1</sup> , 鈴木 徹 <sup>2</sup> , 中川智行 <sup>1</sup> , 早川享志 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 岐阜大院・応生科, <sup>2</sup> 岐阜大・連合農学)
1-3	9:26	難消化性糖質摂取における老化促進マウス SAMP8 の腸内フローラの変化 ○高見昌之, 近藤直幸, 橋口美智留, 田辺賢一, 中村禎子, 奥 恒行 (長崎県立大シーボルト校・院・人間健康科学)
1-4	9:39	除菌ラットにおける食物繊維摂取時の杯細胞数増加作用; エンドトキシン関与の解析 ○日野真吾, 最田裕善, 森田達也 (静岡大・農)

座長：早川享志 (岐阜大院・応生科)

演題番号	時刻	演題および演者
1-5	9:52	ヒト小腸上皮細胞によるペクチン分子内特定多糖構造の認識 本田明里 <sup>1</sup> , 富田恭子 <sup>2</sup> , 中村 綾 <sup>1</sup> , 金丸義敬 <sup>2</sup> , 加藤宏治 <sup>3</sup> , 森雄一郎 <sup>4</sup> , 山元宏貴 <sup>4</sup> , 伊神孝生 <sup>4</sup> , ○矢部富雄 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 岐阜大院・応生科, <sup>2</sup> 岐阜大・応生科, <sup>3</sup> 修文大・健康栄養, <sup>4</sup> 三基商事(株))
1-6	10:05	アスコルビン酸欠乏による肝臓の炎症様変化と, 腸管からのエンドトキシン流入の可能性 ○堀尾文彦 <sup>1</sup> , 三浦奈津子 <sup>1</sup> , 徳田優希 <sup>1</sup> , 小林美里 <sup>1</sup> , 半田 圭 <sup>2</sup> , 森田達也 <sup>2</sup> , 村井篤嗣 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 名古屋大・院・生命農学, <sup>2</sup> 静岡大・農)
1-7	10:18	食物繊維による杯細胞増加作用は中心静脈栄養, 経管(胃瘻)栄養時にも観察される ○伊藤文乃, 土井彩友美, 河田伊織, 日野真吾, 森田達也 (静大・農)
1-8	10:31	ペクチンの化学情報は, 杯細胞からのムチン分泌を促進すると同時に, 腸間膜リンパ節の Th-1/Th-2 バランスを修飾する ○尾藤寛之 <sup>1</sup> , 日野真吾 <sup>1</sup> , 園山 慶 <sup>2</sup> , 森田達也 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 静大・農, <sup>2</sup> 北大・農)

座長：岸田太郎 (愛媛大・農)

演題番号	時刻	演題および演者
1-9	10:44	HAS 投与は大腸内高 H <sub>2</sub> 産生状態を持続させ, 脂肪組織中の H <sub>2</sub> 濃度を増加させる ○田邊宏基 <sup>1</sup> , 小森絵理香 <sup>1</sup> , 園田 恵 <sup>1</sup> , 山本達朗 <sup>1</sup> , 桐山修八 <sup>2</sup> , 西村直道 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 名寄市立大学, <sup>2</sup> ルミナコイドラボ)
1-10	10:57	高 H <sub>2</sub> 生成細菌叢の投与はハイメイズ摂取ラットの H <sub>2</sub> 生成能を大幅に上昇させる ○小森絵理香 <sup>1</sup> , 田邊宏基 <sup>1</sup> , 山本達朗 <sup>1</sup> , 桐山修八 <sup>2</sup> , 西村直道 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 名寄市立大・保健福祉・栄養, <sup>2</sup> ルミナコイドラボ)
1-11	11:10	フラクトオリゴ糖はマウス腸粘膜固有層における Th17 細胞を増加させる ○渡部夏林 <sup>1</sup> , 園山 慶 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 北大院・生命, <sup>2</sup> 北大院・農)
1-12	11:23	$\alpha$ -グルコシダーゼ阻害作用のある桑葉エキス末と <sup>14</sup> C-スクロースをラットへ同時に投与したときの <sup>14</sup> C 放射能の体内動態と腸内細菌による影響 奥 恒行, ○竹下朋哉, 田辺賢一, 中村禎子 (長崎県立大・院・人間健康科学)



座長：園山 慶（北大院・農）

演題番号	時刻	演題および演者
1-13	11:36	食餌性肥満飼料におけるビートファイバーの摂取エネルギー低下効果と食欲関連遺伝子発現の経時変化について ○小原祐香, 森 裕貴, 藤田悠祐, 柿原文耶, 水重貴文, 岸田太郎, 海老原清 (愛媛大院・農・生資・栄養科学)
1-14	11:49	高 $\beta$ -グルカン大麦の摂取がKKマウスの脂肪組織の炎症ならびにインクレチン分泌に及ぼす影響 ○青江誠一郎 <sup>1</sup> , 鈴木祥菜 <sup>1</sup> , 高波嘉一 <sup>1</sup> , 池上幸江 <sup>1</sup> , 塔野岡卓司 <sup>2</sup> , 青木恵美子 <sup>3</sup> , 吉岡藤治 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 大妻女子大学, <sup>2</sup> 農水省農林水産技術会議事務局, <sup>3</sup> 農研機構・作物研, <sup>4</sup> 農研機構・近中四農研)
1-15	12:02	難消化性デキストリンは消化管内分泌細胞に直接作用してGLP-1分泌を促進する ○池江明日香 <sup>1</sup> , 比良 徹 <sup>2</sup> , 岸本由香 <sup>3</sup> , 原 博 <sup>2</sup> ( <sup>1</sup> 北海道大・農・生機化, <sup>2</sup> 北海道大・院農・応生科, <sup>3</sup> 松谷化学工業・研究所)
1-16	12:15	トウモロコシたんぱく質 Zein の加水分解物による血糖上昇抑制へのGLP-1の関与 ○樋口謹行, 比良 徹, 原 博 (北海道大・院農・応生科)

2日目 11月27日(日) 9:00 ~ 12:15

座長：山田和彦（女子栄養大・栄養）

演題番号	時刻	演題および演者
2-1	9:00	難消化性糖質サイクロデキストリンのミネラル吸収および消化管透過性への影響 ○井邊宗一郎, 原 博 (北海道大院・農学院・農学研究院)
2-2	9:13	難消化性オリゴ糖ならびに食物繊維の長期摂取による老化促進モデルマウス SAMP6 の腸内フローラを介した骨代謝改善に及ぼす影響 ○田辺賢一, 北島美穂, 中村禎子, 奥 恒行 (長崎県立大学シーボルト校・看護栄養学部栄養健康)
2-3	9:26	老化促進モデルマウス SAMP8 の記憶・行動に及ぼす難消化性オリゴ糖および食物繊維の長期摂取の影響 ○近藤直幸 <sup>1</sup> , 橋口美智留 <sup>1</sup> , 山口喜勇 <sup>2</sup> , 田辺賢一 <sup>1,2</sup> , 中村禎子 <sup>1,2</sup> , 奥 恒行 <sup>1,2</sup> ( <sup>1</sup> 長崎県立大シーボルト校・院・人間健康科学, <sup>2</sup> 長崎県立大シーボルト校・看護栄養学部栄養健康)
2-4	9:39	ラットの消化機能に及ぼす飼料澱粉源 (生澱粉または糊化澱粉) の影響 ○内田乃利旭 <sup>1</sup> , 立部 誠 <sup>2</sup> , 岸田太郎 <sup>1</sup> , 海老原清 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 愛媛大・農, <sup>2</sup> 松谷化学工業(株)研究所)

座長：西村直道（名寄市立大・保健福祉）

演題番号	時刻	演題および演者
2-5	9:52	ラット脂質代謝に及ぼす <i>Propionibacterium jencenii</i> 及び <i>P.acidipropionici</i> 菌体投与の影響 ○近藤位旨 <sup>1</sup> , 桑原美咲 <sup>1</sup> , 高屋朋彰 <sup>2</sup> , 佐藤達也 <sup>1</sup> , 菅原雅通 <sup>1</sup> , 谷口正之 <sup>2</sup> , 菅原正義 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 長岡工専, <sup>2</sup> 新潟大学)
2-6	10:05	ハト麦外皮由来水溶性食物繊維の脂質代謝改善作用 佐藤 俊, 花木麻里子, 和田卓也, 平井 静, ○江頭祐嘉合 (千葉大院・園芸)
2-7	10:18	米ぬかアラビノキシラン (MGN-3) による D-ガラクトサミン肝障害発症抑制機構に関する研究 ○蘇日娜 <sup>1</sup> , 朱 霞 <sup>2</sup> , 加藤久宜 <sup>2</sup> , 真田宏夫 <sup>1</sup> , 平井 静 <sup>1</sup> , 江頭祐嘉合 <sup>1</sup> ( <sup>1</sup> 千葉大院・園・応用生命, <sup>2</sup> 大和薬品(株))

## 座長：江頭祐嘉合 (千葉大院・園)

演題番号	時刻	演題および演者
2-8	10:31	DSS 誘導大腸炎モデルマウスにおける水溶性／不溶性食物繊維の影響 ○紙谷ひとみ, 小倉香名, 清水 純, 真野 博 (城西大・薬・医療栄養)
2-9	10:44	大麦若葉末による DMH 誘発マウス大腸ガン抑制作用 片山 (須川) 洋子 <sup>1</sup> , ○奥 和之 <sup>1</sup> , 片山真之 <sup>1</sup> , 山口容子 <sup>2</sup> , 村上 香 <sup>3</sup> , 神谷智康 <sup>4</sup> , 池口主弥 <sup>4</sup> , 高垣欣也 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> 大阪青山大, <sup>2</sup> 福岡女子大, <sup>3</sup> 広島工大, <sup>4</sup> (株)東洋新薬)
2-10	10:57	還元難消化性デキストリンの安全性およびヒトにおける下痢発現の最大無作用量 ○吉川裕子, 岸本由香, 田上廣幸 (松谷化学工業 (株) 研究所)
2-11	11:10	長期食生活調査における食事パターン構造と食物繊維摂取状況 ○三成由美 <sup>1</sup> , 北原詩子 <sup>1</sup> , 印南 敏 <sup>2</sup> , 徳井教孝 <sup>3</sup> ( <sup>1</sup> 中村学園大学, <sup>2</sup> 東京農業大学, <sup>3</sup> 産業医科大学)

## 座長：中村禎子 (長崎県立大・院・人間健康科学)

演題番号	時刻	演題および演者
2-12	11:23	水溶性／不溶性食物繊維を調整し下痢が改善した3歳男児 ○高増哲也, 和田 碧, 原希代美 (神奈川県立こども医療センター 外来 NST)
2-13	11:36	ラットの糞便排泄と盲腸内容物に及ぼすマイタケ熱水抽出物質の影響 ○川面香奈 <sup>1</sup> , 佐藤真治 <sup>2</sup> , 田中昭弘 <sup>1</sup> , 鈴木 蘭 <sup>1</sup> , 山崎春佳 <sup>1</sup> , 小西徹也 <sup>2</sup> ((株)雪国 まいたけ, <sup>2</sup> 新潟薬科大学)
2-14	11:49	還元難消化性デキストリンの生理学的特性 ○田上廣幸, 岸本由香, 宮里祥子, 北川真知子, 林 範子, 吉川裕子, 大賀浩史, 山田 貴子, 西端豊英 (松谷化学工業 (株) 研究所)
2-15	12:02	還元難消化性デキストリン配合低たんぱく質米飯の有効性および安全性 ○長田 隆 <sup>1</sup> , 中條均紀 <sup>1</sup> , 海老原淑子 <sup>2</sup> , 坂野克久 <sup>3</sup> , 岸本由香 <sup>4</sup> ( <sup>1</sup> ホリカフーズ (株) 研究所, <sup>2</sup> チヨダパラメディカルケアクリニック, <sup>3</sup> C P C C (株), <sup>4</sup> 松谷化学工業 (株) 研究所)

## 講演者, 討論者, 座長へのお願い

### 1) 講演

一般演題の講演時間は、発表 10 分、質疑応答 3 分です。(9 分で 1 鈴、10 分で 2 鈴、12 分 30 秒で 3 鈴)

発表用に液晶プロジェクターと PC (Windows XP) を用意致します。発表のスライドを Power Point (2007 まで) のデータとして CD または USB メモリーで複数ご用意下さい。一般演題は共通の PC を使用して発表をお願いします。特殊な場合は事前に相談下さい。なお、Macintosh でご準備されている場合の動作保障はできませんので、ご自身の PC をご持参くださるようお願い申し上げます。

### 2) 質疑応答

質問者は座長の指示に従い、所属と氏名を述べてから、ご発言ください。

### 3) 座長へのお願い

運営の都合上、担当時間 30 分前までに会場に到着し、受付に出席している旨をお知らせ下さい。

# 特別講演・シンポジウム・公開講演会 プログラム

11月26日(土) 14:10～15:20

## 特別講演

司会 永田保夫 先生 (長崎大学教授, 長崎県立大学客員教授)

Interplay between gut microbiota, obesity and type 2 diabetes: new insights into the gut ?

Prof. Patrice D Cani

(Université catholique de Louvain, Louvain Drug Research Institute, Belgium)

11月26日(土) 15:30～17:30

## シンポジウム 「消化管機能とルミナコイド：代謝疾患との関連」

オーガナイザー 青江誠一郎 先生 (大妻女子大学), 森田 達也 先生 (静岡大学)

15:30 1. 高脂肪食がプロバイオティクスに与える消化管内ストレスとプレバイオティクスによるストレス対処

園山 慶 先生 (北海道大学大学院農学研究院)

16:10 2. ルミナコイドによる消化管機能を介した糖尿病予防

～動物モデルにおける小腸粘膜上皮細胞内網羅的遺伝子解析～

市川 寛 先生 (同志社大学院・生命医科学)

16:50 3. 胆汁酸代謝調節によるメタボリックシンドロームへのアプローチ

渡辺光博 先生 (慶應義塾大学医学部・腎臓内分泌代謝内科)

11月27日(日) 14:20～16:20

## 公開講演会 「日本人の食物繊維摂取の現状と将来 『子供たちの食生活の実情について』」

座長 池上幸江 先生 (大妻女子大学名誉教授)

14:20 1. 日本人の栄養摂取状況における食物繊維の現状

吉池信男 先生 (青森県立保健大学健康科学部・栄養学科)

14:50 2. 地方における児童生徒の食と生活リズムに関する報告

柳沢幸子 先生 (長野県御代田町立御代田中学校栄養教諭)

15:20 3. 家庭の食卓実態と子供の便秘 - ADK「食 DRIVE」調査より -

岩村暢子 先生 ((株)アサツー デイ・ケイ, 慶応大学スポーツ医学研究センター研究員)

15:50 4. 食物繊維の役割と最新の研究について

海老原清 先生 (愛媛大学農学部・栄養科学)

## 編集委員会より

東京電力と東北電力管内の大学や企業にお勤めの皆様方は、節電はいかがでしたでしょうか。私の職場（大学）も、電力使用制限を意識せずに電気を消費することを前提とした仕組みになっていることを改めて痛感させられました。企業ではどれほど大変でしたことでしょうか。冬場の節電要請はより広範囲に出されると取りざたされています。会員の皆様方の大学や企業の活動に大きな影響が出ないように祈るばかりです。  
(倉沢)

### 📣 平成 23 年度年会費納入のお願い

当学会は学術集会、公開講演会の開催、学会誌・ニュースレター発行などの運営を会員の皆様から頂く年会費に依存しております。つきましては本年度年会費未納の会員様は早急に事務局までお振込み下さいますようお願い申し上げます。会費納入状況につきましては本誌をお送りしている封筒の宛名ラベル右下に記載がありますのでご参照下さい。ご不明の点は学会事務局まで御問合せ頂きますようお願い致します。

### 📣 会員名簿変更届け提出のお願い

・学生会員でご登録頂いている方で、卒業・就職などにより学生ではなくなった方は会員名簿変更届けを事務局までご提出下さい。  
・その他の会員様もご登録内容に変更があった場合は速やかに事務局までお知らせ下さい。

会員状況：平成 23 年 10 月 31 日現在

●正会員	217 名	●学生会員	43 名	●賛助会員	49 社
●団体会員	9 団体	●名誉会員	10 名		

### 【賛助会員】

朝日食品工業(株)  
伊那食品工業(株)  
大塚製薬(株)  
(株) 荻野商店  
(株) カイゲン  
(社) 菓子・食品新素材技術センター  
佐合食品工業(株)  
サントリーウエルネス(株)  
三和澱粉工業(株)  
清水化学(株)  
昭和産業(株)  
全国精麦工業協同組合連合会  
第一出版(株)  
DSP 五協フード & ケミカル(株)  
太陽化学(株)  
キリン協和フーズ(株)  
ダニスコジャパン(株)

日清食品ホールディングス(株)  
日清ファルマ(株)  
日本ケロッグ(株)  
日本甜菜製糖(株)  
日本バイオコン(株)  
(株) はくばく  
(株) 林原生物化学研究所  
松谷化学工業(株)  
雪印メグミルク(株)  
塩水港精糖(株)  
フィプロ製薬(株)  
明治製菓(株)  
(株) 東洋新薬  
日本エヌエスシー(株)  
ネキシラ(株)(旧コロドナチュラルジャパン(株))  
ロケットジャパン(株)  
(株) カーギルジャパン

フジ日本精糖(株)  
大和化成(株)  
(株) Fi ニュートリション  
(株) J-オイルミルズ  
和光純薬工業(株)  
花王(株)  
ユニテックフーズ(株)  
(株) ファンケル  
(株) 雪国まいたけ  
永倉精麦(株)  
(株) ADEKA  
ハウス食品(株)  
大塚食品(株)  
日本食品化工(株)  
信越化学工業(株)  
CJ ジャパン(株)

(順不同)



日本食物繊維学会

Newsletter No.32

発行日： 2011 年 11 月 1 日  
発行人： (社) 日本食物繊維学会理事長 奥 恒行  
編集人： 海老原 清, 倉沢 新一  
印刷所： 江戸クリエート株式会社  
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-40-10  
三翔ビル本郷 3 階

(社) 日本食物繊維学会事務局  
江戸クリエート株式会社内  
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-40-10  
三翔ビル本郷 3 階  
TEL：03-3814-1225 FAX：03-3814-3215  
<http://jdf.umin.ne.jp>